



2016年7月期 第3四半期決算資料

株式会社 ティー・ワイ・オー

2016年6月10日

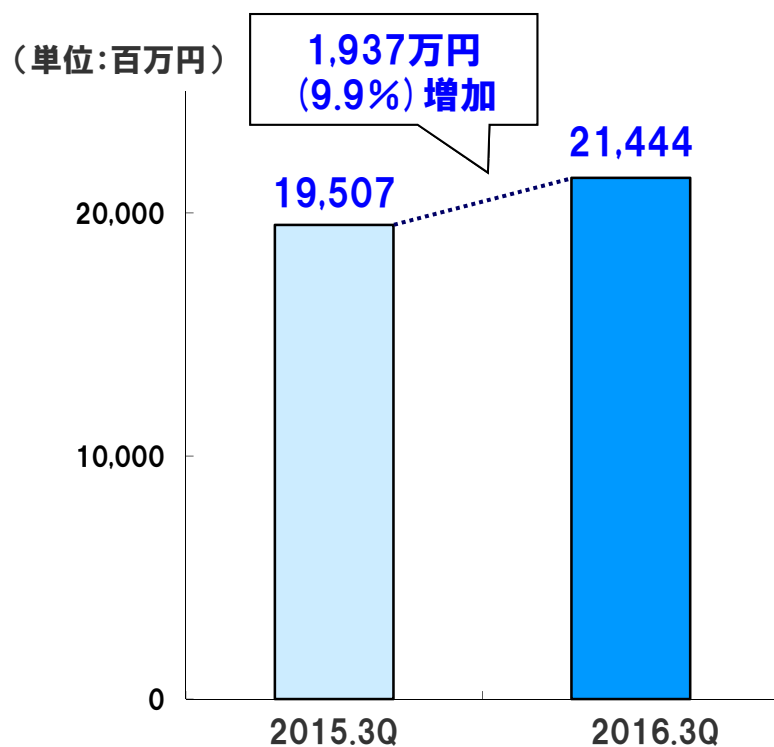
1. 連結決算



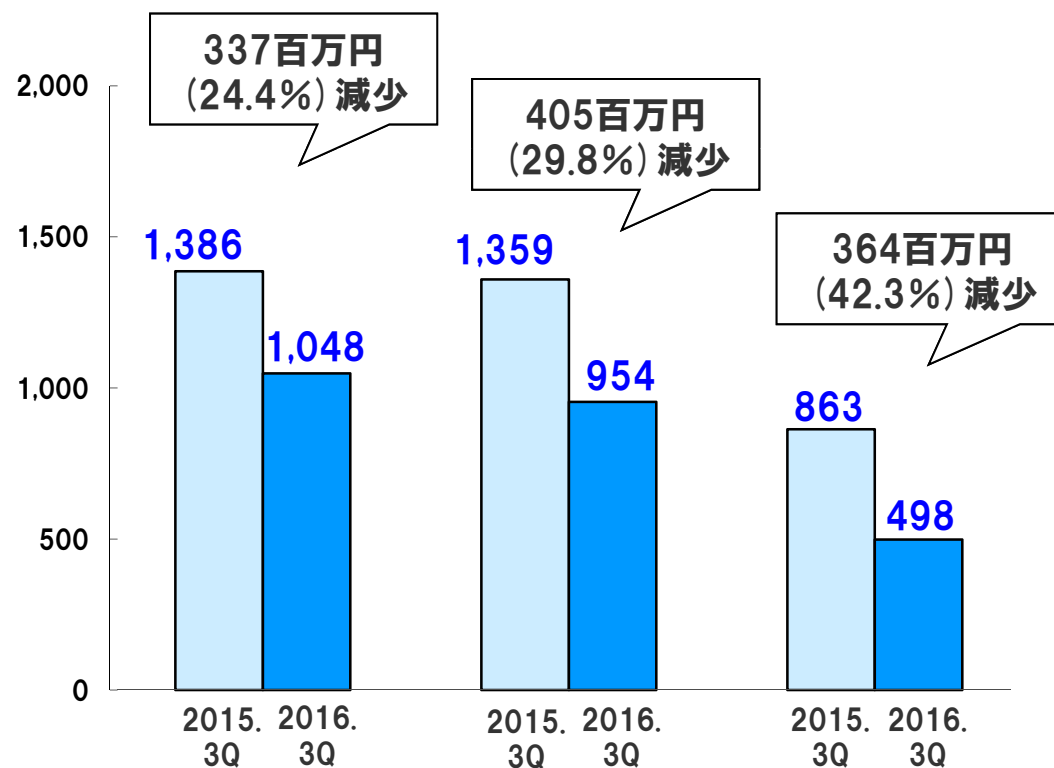
1.1. 決算ハイライト

1Qの出遅れから、2Q・3Q連結会計期間の業績は復調し、
売上高は前期比で増加した一方、各段階利益は減少。

【売上高】



【営業利益】 【経常利益】 【四半期純利益】



1.2.1. 連結損益計算書サマリー

(単位:百万円)	2015.3Q		2016.3Q		増減額	増減率	
	金額	百分比	金額	百分比			
売上高	19,507	-	21,444	-	1,937	9.9%	✓案件受注が好調に推移し、前期実績を超える売上高を確保。
売上原価	15,927	81.7%	17,760	82.8%	1,833	11.5%	✓1Qの低利益率案件が重荷となったが、原価管理の徹底により、粗利益率は改善。(1Q:14.1% → 2Q:15.7% → 3Q:17.2%)
売上総利益	3,579	18.4%	3,683	17.2%	104	2.9%	
販売管理費	2,193	11.2%	2,635	12.3%	442	20.1%	✓積極的投資・新子会社の費用計上により、販管費は前期比で増加。
営業利益	1,386	7.1%	1,048	4.9%	-337	-24.4%	
営業外収益	54	0.3%	51	0.2%	-3	-6.8%	
営業外費用	81	0.4%	145	0.7%	63	78.5%	✓連結子会社の業績不振等により、営業利益は減少。
経常利益	1,359	7.0%	954	4.4%	-405	-29.8%	
特別利益	103	0.5%	0	0.0%	-103	-99.8%	✓上記要因より、経常利益は減少。
特別損失	66	0.3%	11	0.1%	-55	-83.1%	
税金等調整前 四半期純利益	1,396	7.2%	943	4.4%	-453	-32.5%	
法人税等合計	520	2.7%	428	2.0%	-92	-17.7%	
非支配株主に帰属 する四半期純利益	12	0.1%	16	0.1%	3	28.1%	
親会社株主に帰属 する四半期純利益	863	4.4%	498	2.3%	-364	-42.3%	✓上記要因により、親会社株主に帰属する四半期純利益は減少。

1.2.2. 広告主業種_Top10

電気・情報通信、自動車、飲料、衣料向け売上が引き続き好調。

【業種別 売上高Top10】

	2015.3Q(累計)	2016.3Q(累計)
1位	車両・交通器具・工業機械	電気・情報通信
2位	電気・情報通信	車両・交通器具・工業機械
3位	飲料	飲料
4位	衣料・繊維・服飾	衣料・繊維・服飾
5位	教養・出版・情報	娯楽・エンターテインメント
6位	娯楽・エンターテインメント	教養・出版・情報
7位	化粧品・衛生・医療	化粧品・衛生・医療
8位	流通関係・レストラン	流通関係・レストラン
9位	食品	食品
10位	不動産・建設	不動産・建設

1.3.1. 連結貸借対照表①

(単位:百万円)	2015.4Q	2016.3Q	増減
流動資産	11,235	13,370	2,134
現金及び預金	4,388	5,057	669
受取手形及び売掛金	4,736	5,233	497
仕掛品	1,633	2,471	837
その他	486	613	126
貸倒引当金	-9	-6	2
固定資産	3,354	3,633	278
有形固定資産	1,985	2,090	104
無形固定資産	320	252	-68
投資その他の資産	1,048	1,290	241
投資有価証券	145	356	210
その他	964	995	31
貸倒引当金	-60	-60	0
資産合計	14,590	17,003	2,412

✓ 受注残高が前期末比で974百万円増加したことにより仕掛品増加。

✓ K&L社の第三者割当増資引受に伴い新規のれん9Mが発生、一方、その他ののれん償却等により無形固定資産は前期末比で減少。

1.3.2. 連結貸借対照表②

(単位:百万円)		2015.4Q	2016.3Q	増減	
負債の部	流動負債	5,827	7,436	1,609	
	買掛金	3,288	3,598	309	✓好調な案件受注に伴う増加。
	短期借入金、 1年内返済予定長期借入金	500	2,100	1,600	
	未払金、未払消費税等、 未払法人税等	1,560	826	-734	
	その他	477	912	434	
	固定負債	3,003	3,404	401	
	長期借入金	2,300	2,275	-25	✓約定返済に伴う減少により 長期借入金は減少。
	その他	703	1,129	426	
	負債合計	8,830	10,841	2,010	
純資産の部	株主資本	5,547	5,734	186	
	資本金	1,850	1,850	0	
	資本剰余金	846	846	0	
	利益剰余金	2,851	3,037	186	✓配当金311百万円の支払いの一方、 親会社株主に帰属する四半期純利益 498百万円の計上により増加。
	自己株式	-0	-0	0	
	その他の包括利益累計額	24	-38	-62	
	新株予約権	86	134	47	
	非支配株主持分	101	331	230	
	純資産合計	5,759	6,162	402	
負債純資産合計	14,590	17,003	2,412		

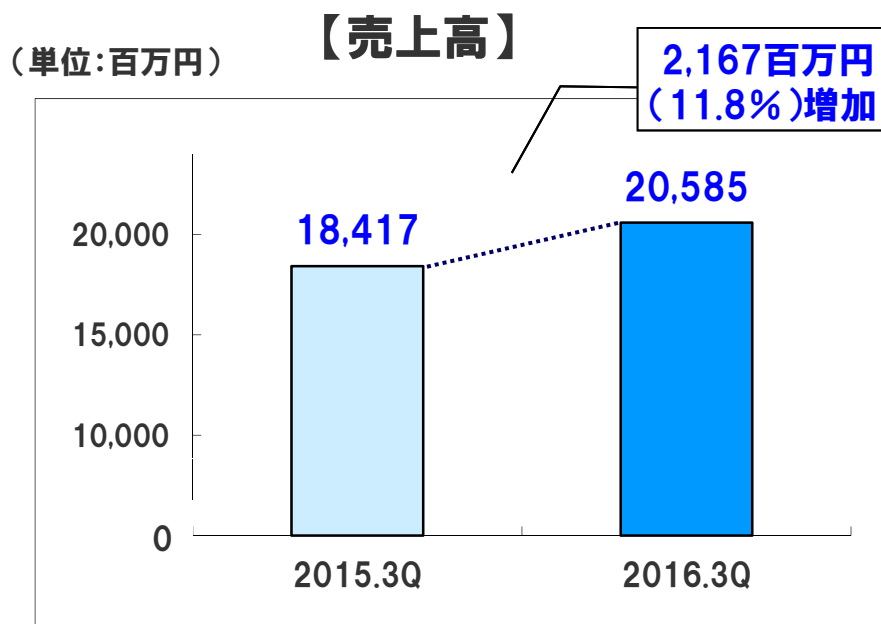
2. セグメント業績



2.1. 広告事業

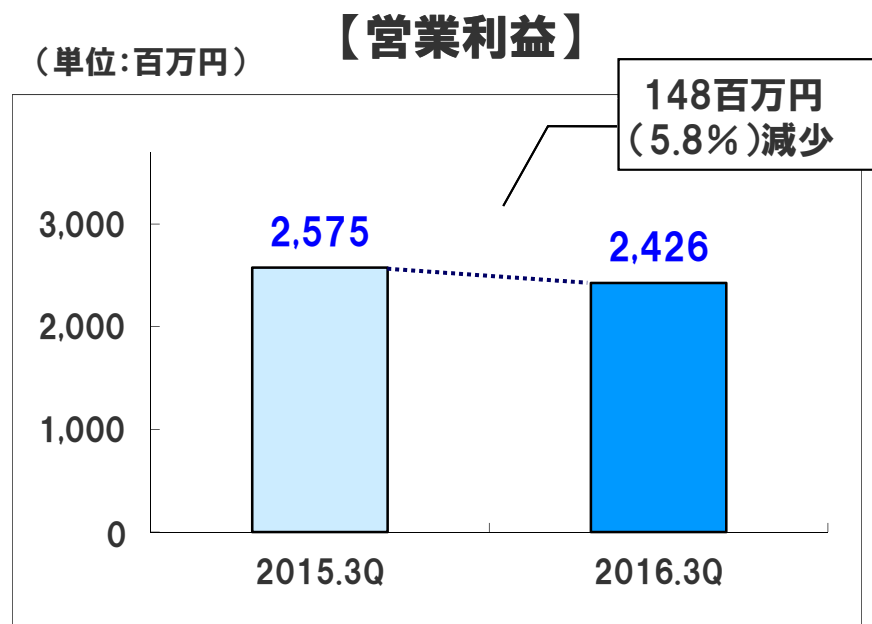


案件受注は順調に推移した一方、
 利益面では1Qの出遅れを完全に挽回するに至らず増収減益。



- ✓ 案件受注は順調に推移。
- ✓ 既存ブランドの売上高伸長に加えて、新子会社の貢献もあり前期比で増収。

✓ 売上高は前期比で
2,167百万円(11.8%)増加。



- ✓ 売上高が増加したものの、1Qの出遅れ・子会社の不振等により前期比で減益。

✓ 営業利益は前期比で
148百万円(5.8%)減少。

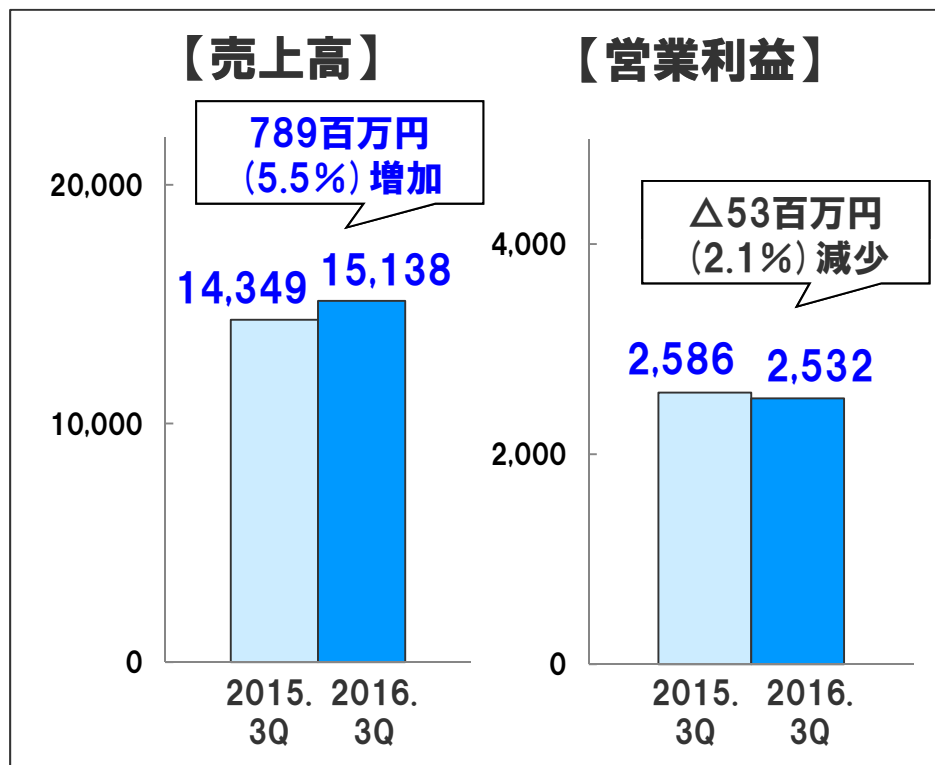
2.1.2.セグメント業績

広告事業

:内訳(取引形態別)

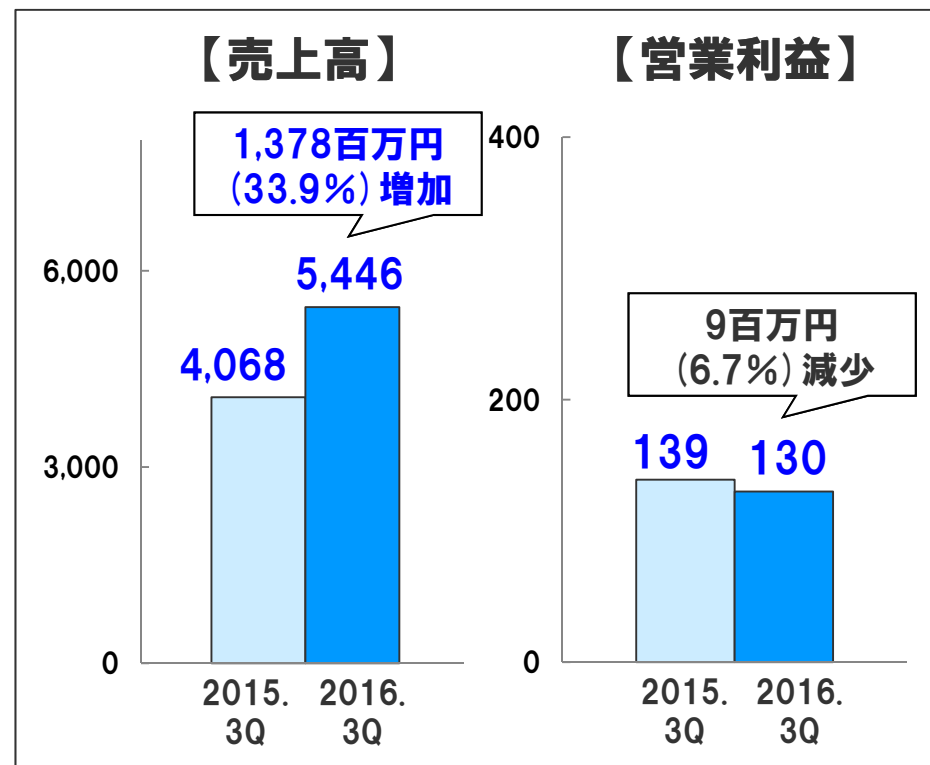
広告代理店取引

(単位:百万円)



広告主直接取引

(単位:百万円)



- ✓ 案件受注は好調を維持し、売上高は前期比で増加。
- ✓ 営業利益は前期比で微減となった一方、2Q連結会計期間以降の営業利益率は改善傾向。
- ✓ 案件の引き合いは好調に推移し、新子会社の貢献もあり、売上高は前期比で増加。
- ✓ インドネシアの新会社の業績不振等により、営業利益は前期比で減少。

※ 売上高: 外部顧客売上合算

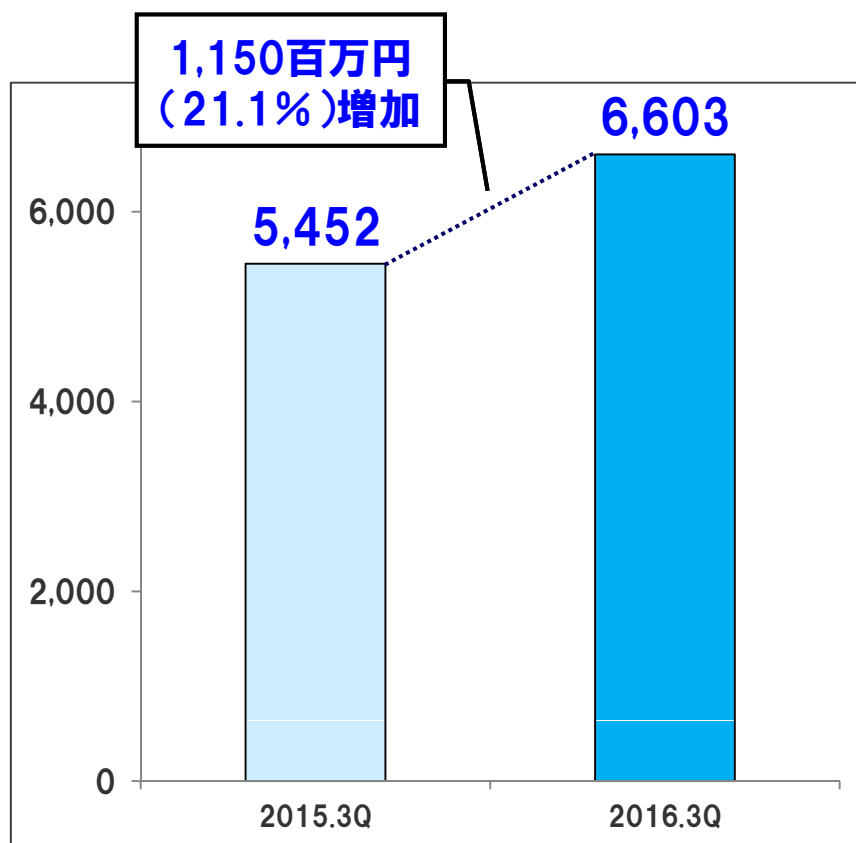
営業利益: 部門別営業利益合算(連結調整前)

(広告主直接取引のTV-CMの営業利益は「広告主直接取引」に計上) highly confidential ©TYO

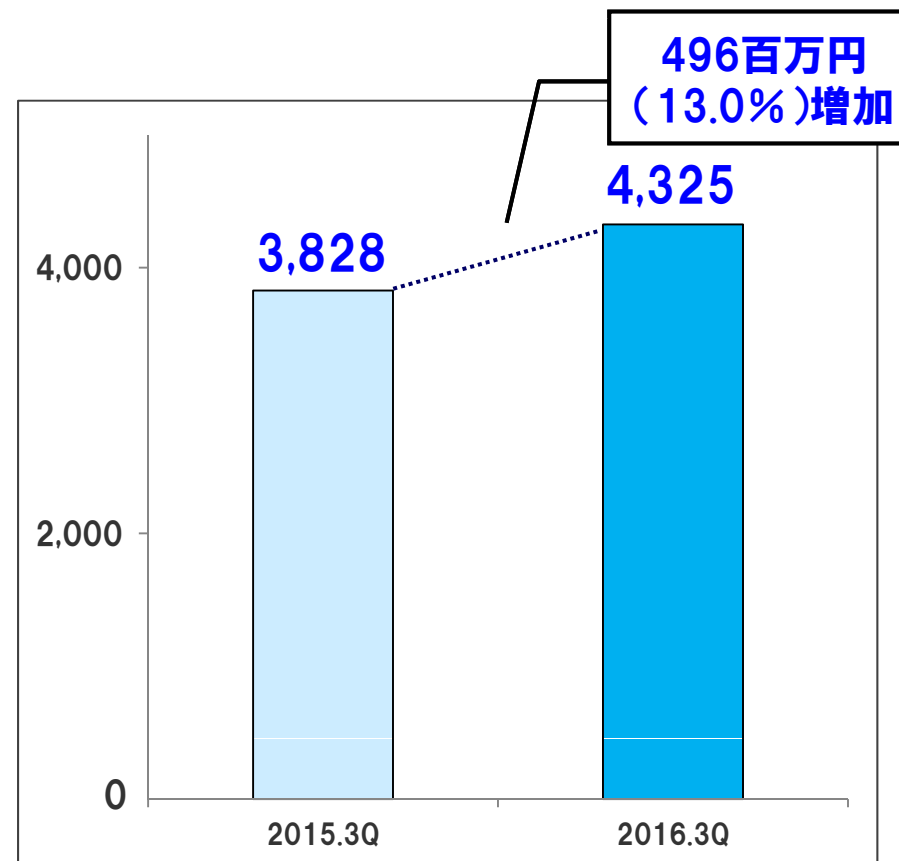
2.1.3. 対電通・博報堂売上高推移

対電通売上が前期比で躍進、博報堂向けも好調に推移。
(2社合計:前期比1,646百万円増加)

(単位:百万円) 【対電通売上高】



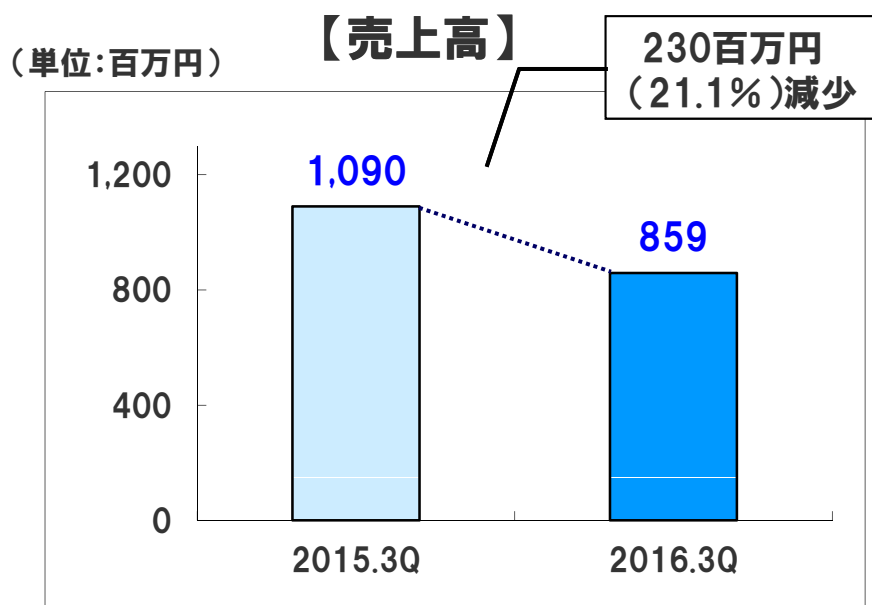
(単位:百万円) 【対博報堂売上高】



2.2. 映像関連事業

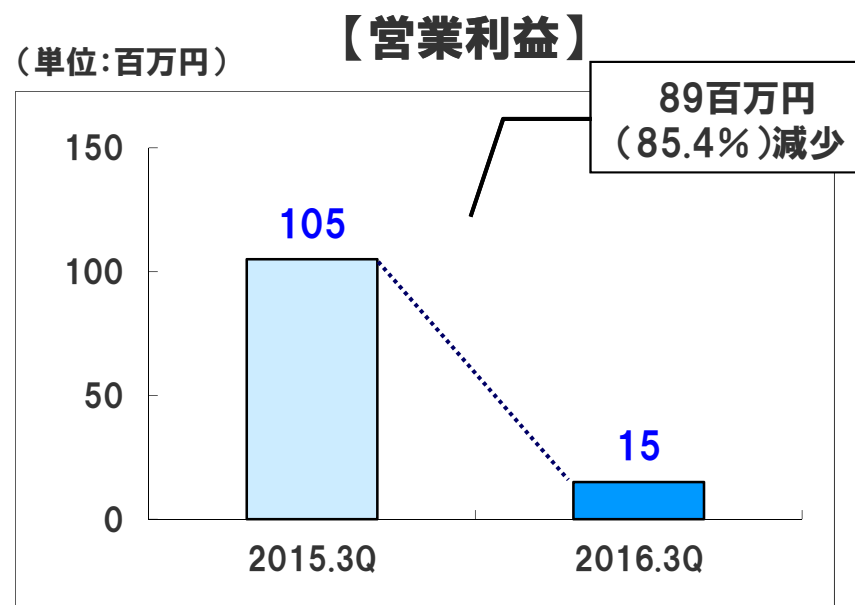


企業向け映像案件や高利益率のライブ映像案件を多数受注した前期比で減収減益。



- ✓アニメ制作では一部案件の受注規模縮小。
- ✓企業向け映像案件やライブ映像案件の受注本数は低調に推移。

✓売上高は前期比で
230百万円(21.1%)減少。



- ✓アニメ制作では低利益率案件の作業終了により、利益は良化の兆候。
- ✓前期は高利益率のライブ大型案件が全体の利益を押し上げ。

✓営業利益は前期比で
89百万円(85.4%)減少。

3. 経営施策の進捗状況



3. 経営施策

1

人員/人材強化

2

広告主直接取引の拡充

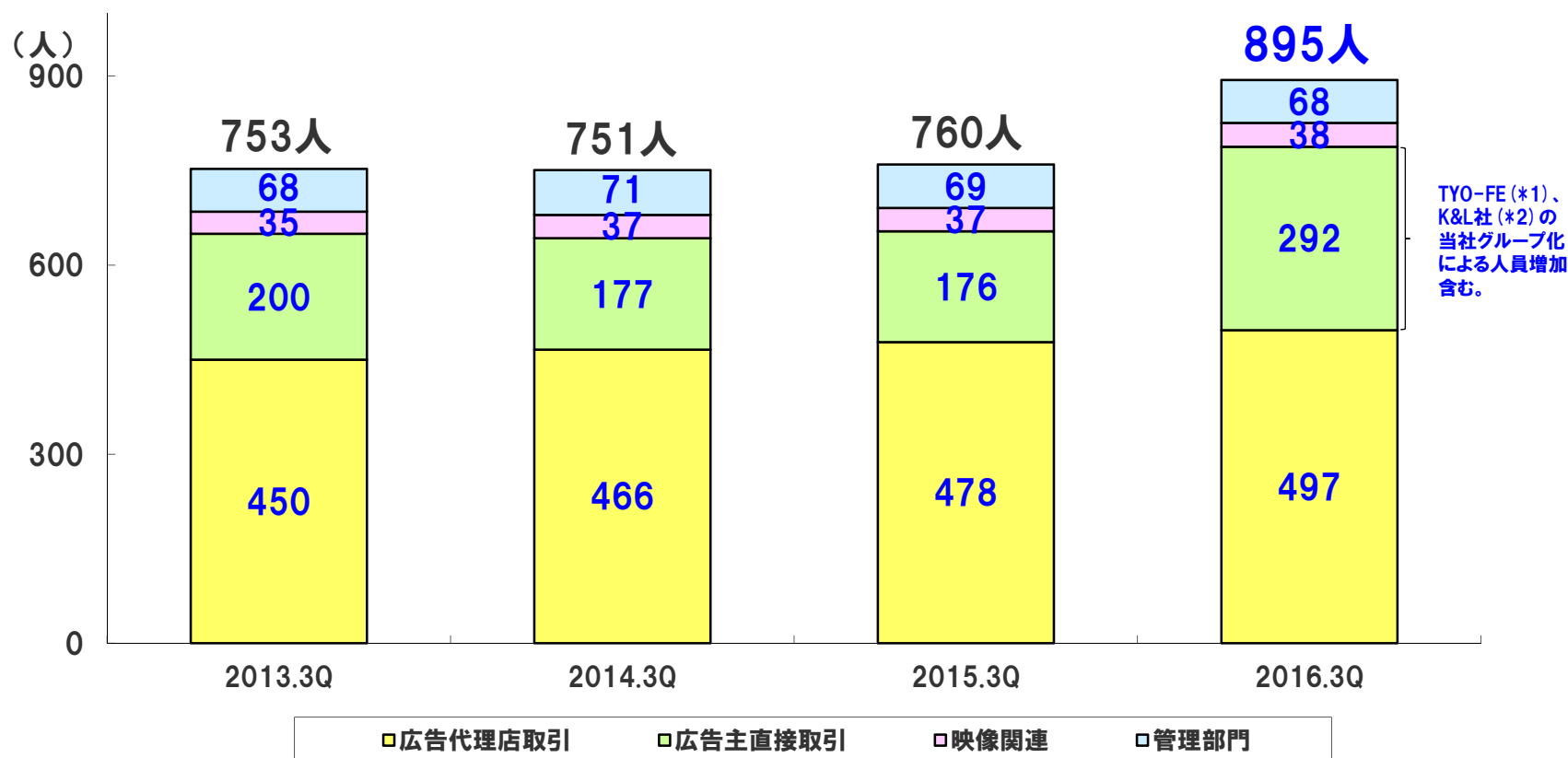
3

M&A展開

3.1. 人員／人材強化

広告主直接取引部門の人員増強によりグループ人員数増加。
優秀な人材の獲得・育成の為、採用方針を刷新。

【人員推移】



*1 2015年7月に設立した合弁会社/インドネシア法人PT TYO FIRST EDITION

*2 2015年8月に第三者割当増資を引き受けた(株)ケー・アンド・エル

3.2. 広告主直接取引の拡充

■ PR事業の開始

【背景】

- ・クライアントから需要の多いPR機能を保持しておらず、従来、PR業務は外部委託により対応。
- ・国内のPR市場規模は年々拡大傾向にあり、当社グループの成長に不可欠。

【PR事業の概要】

- ① PR業界屈指の人材を核としてTYOグループ内においてPR事業を開始。(本年10月を予定)
- ② 広報サービス・PRエージェンシー機能の付加により、広告・広報全般のサービスをワンストップで提供。
- ③ 中期的に売上高30億円、営業利益3億円(営業利益率10%)を目指す。

■ 上流からの一括受注案件が増加

既存クライアントからの継続受注・複数の新規クライアントから大型案件受注

【事例】

(株)Cygames	TV-CM、グラフィック、PR
大東建託(株)	TV-CM、Web、グラフィック、ノベルティ
日研トータルソーシング(株)	イベント、Web、グラフィック、PR
日本精工(株)	グラフィック、VP(*)、ノベルティ

*Video Package：企業が特定の目的に使うために制作する映像のことを表す。
企業プロモーションビデオ、イベント用ビデオ、営業ツール等で使用される。highly confidential ©TYO

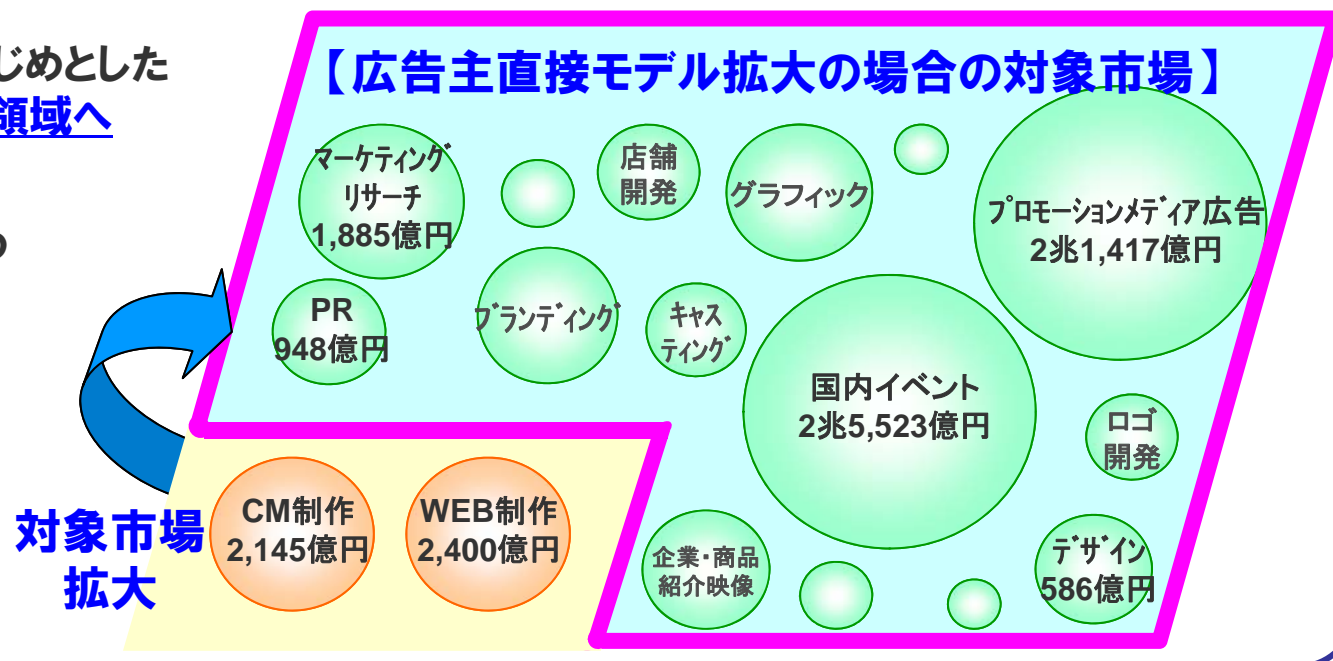
3.3. M&A展開

■ 国内：今後の展開

- ・ セールスプロモーションをはじめとした 広大な市場が事業の対象領域へ

- ・ 業務提携、資本提携も含め手法を柔軟に検討中

⇒ PR領域は、業界有数の人材とともにグループ内で事業を開始



■ 海外：今後の展開

- ・ 2015年12月に新設したK&L CREATIVE ASIA PTE. LTD.(シンガポール)が本格稼働。
- ・ ASEAN地域を中心として、第2弾以降のM&A候補先の調査及び選定を準備中
- ・ 業務提携・資本提携も含め、既存の海外拠点とのシナジー効果が期待できる手法を検討中

4. 数値計画



4.1. 業績予想

当初より業績予想を変更するも、売上高は5期連続で増収見込み。
配当予想は1株当たり5円から変更なし。

【2016年7月期 通期業績予想】

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	配当金
半期 【実績】	13,791	408	366	132	-
※前期実績	12,596	721	709	439	-
通期 【予想】	30,000	1,500	1,350	720	5円
※前期実績	28,393	1,884	1,806	1,119	5円

4.2.今後の展開:数値計画

【当初計画】

□売上高

18年7月期に、500億円

	15年7月期 【計画値】	16年7月期 【計画値】
売上高	280億円	320億円
営業利益 (率)	18.5億円 (6.6%)	21.5億円 (6.7%)

【現状の計画】

□売上高

18年7月期に、500億円

	15年7月期 【実績値】	16年7月期 【計画値】	17年7月期 【計画値】
売上高	283億円	300億円	400億円
営業利益 (率)	18.8億円 (6.6%)	15.0億円 (5.0%)	27.0億円 (6.8%)

- 16年7月期の業績予想を修正するも、
17年7月期 以降の計画は据え置き

□成長方針

既存事業での成長は勿論、

規模・収益力・競争力強化の為、

国内・海外の双方において、積極的に戦略的事業投資を実施

4.3. 株主優待制度のご紹介

2016年度 株主優待（2016年1月31日時点） ※条件に一部変更あり

① クオカード

- ・ 1,000株以上 ⇒ 1,000円相当
- ・ 3,000株以上 ⇒ 5,000円相当
- ・ 5,000株以上 ⇒ 10,000円相当

② TYOオリジナル株主優待

当社ならではのクリエイティブ性のある株主優待を継続的に実施。

2016年7月期 TYOオリジナル株主優待
『株主様！あなたがアニメの主人公！』

【概要】

- ・ 当社グループ会社でアニメーション制作を行う(株)TYOアニメーションズが株主様のために世界に一本だけの**オリジナルアニメーション**を制作。
- ・ スタッフとともにキャラクターやストーリーを創り、参加希望者はアフレコにも挑戦。
- ・ 作品DVD、オリジナル原画等を贈呈。
- ・ 抽選2組（家族・友人等と出演可）

【参考】2015年度 株主優待実績

① クオカード

- ・ 500株以上 ⇒ 1,000円相当
- ・ 2,500株以上 ⇒ 3,000円相当
- ・ 5,000株以上 ⇒ 5,000円相当

② TYOオリジナル株主優待

株主様に好きな歌を歌っていただき、衣装、スタイリスト等は当社で用意。オリジナルミュージックビデオを制作（抽選3組）



プロが使用する本格的なスタジオでのレコーディング体験！



スタジオにセットを用意し、プロの制作スタッフが集結！

- ・ 本資料で提供している情報に関しては万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございます。予めご了承ください。
- ・ 本資料には、当社の現在の計画、及びその業績に関する将来の見通しが含まれています。これらの見通しは、将来の業績を完全に見通したものであるとは限らず、将来の業績に影響を与うるリスクや不確実な要素が含まれています。実際の業績は、さまざまな要因により、これらの見通しとは異なることがあります。
- ・ 本資料は、有価証券の売出し、販売、勧誘を構成するものではありません。

何かご不明な点等ございましたら、下記までご連絡下さい。

TYO経営企画部 (03-5434-1586)